

陽が短くなってきました。老輩は何とか酷暑を乗り切りました。皆さんお元気ですか。

「家族」をテーマの読書会が来週に迫ってきましたので、確認のメールです。

会場は Cocktail 書房 (<https://www.koenji-cocktail.info/>) で、会場の電話は 070-6430-2603 です。

場所：高円寺駅から徒歩5分くらい(杉並区高円寺北3-8-13：下の地図を参照)

高円寺駅北口に出たら、左手の横断歩道をわたり「上島珈琲」の左の道を進んで下さい。

日時：9月16日(第3土曜日)午後3時からです。代表の狩野さんに匠でお尋ね下さい。

有吉佐和子「女2人、ニューギニアをいく」は、すでにお手元にあると思います。小説家というのは文章が上手いと感心していますが、彼女をニューギニアへ引きずり込んだ良き友、畑中幸子にも感心しています。彼女は1人で5年間もニューギニア高地人と生活をともにしたのですから、驚嘆しきりですね。ニューギニア関係では、下記の本を読みました。

N・ミクルホ=マクライ「ニューギニア紀行」19世紀ロシア人類学者の記録 中公文庫 1992

畑中幸子「われらチンブー」ニューギニア高地人の生命力 三笠書房 1975

西丸震哉「さらば文明人」ニューギニア食人種紀行 ファラオ企画 1991

本多勝一「ニューギニア高地人」朝日文庫 1981

そこから家族に関する部分を抜き出してみましたので、お目汚しまで。ではお目にかかるのを楽しみにしています。ご自愛のほど。 匠 雅音 拝 携帯 090-2739-3451



畑中幸子「われらチンブー」三笠書房 1975 年

1967~72 年ニューギニア在

生計が女性によって支えられてきた部族社会で、男性が戦い以外に何をしてきたかといえば、それは近隣部族との取引、すなわち交易を通して力の均衡を保つことに努めてきたことである。パプア・ニューギニアにおいて相互の取引は言語や文化の境界を越えて発達していた。(中略)

一方、部族や個人間の関係は始終変わっている。お互いに忠節、誠意といったものが取引には絶えず試され、確認される。シナシナ地方をはじめチンブー人の取引における構造的な背景は、地縁集団を構成する部族の小グループであるサブ・クランにある。チンブーの部族は姻戚の結びつきが交換を通じて強い。貝、極楽鳥の羽、ひくいどり、石斧、塩などを得るため、個人あるいは小さなグループが交易のために出かけた。彼らの中には一年のほとんどを路上で過ごす者もいた。友情の絆は贈与、貸借、物々交換、女の交換などによって堅くなる。ミッション(キリスト教宣教師)が来てからもなおしばらく未婚、既婚を問わず、女性が両親や夫によって最大のもてなしとして客に提供され、そのお返しに伝統的財貨が贈られた。P 2 0 0

本多勝一「ニューギニア高地人」朝日文庫 1981 年

1963 年西イリアン在

仕事の上では何の差別も認められない。だが、コボマ(夫)に対する態度に違いがある。若い第三夫人の方がコボマと親しげに話し、第二夫人は常に遠慮勝ちだ。第三夫人は、自分の方がコボマに好かれていることを意識し、第二夫人は敗者であることを意識している。若い第三夫人は明るく、古い第二夫人は暗い。 P 8 8

一夫多妻ではあっても、モニは一戸の家庭がそれぞれ独立していて家庭中心主義なのに対し、ダニは部落ごとに団体生活をしている。ウギンバ部落の場合、中心に一軒の「男の家」があり、男たちは主としてここで寝泊まりする。あとは女子供の住む「女の家」だ。こういう形態は、たとえばナイジェリア(アフリカ)のヤケー族と同じだが、ヤケー族は一人の女が一つの小屋を持つのに対し、ダニ族の場合は一人の男の「女の家」に、第一夫人でも第二夫人でも同居している。 P 1 6 7

N・ミクルホ=マクライ「ニューギニア紀行」中公文庫 1992 年

1871 年 1876 年 1883 年ニューギニア在

今日ゴレンドゥには女の姿が見えなかったが、トゥイ(マクライの友達)が快方に向かったので畑へ行ったのであろう。畑へ出て一日中働くことが女の日常の仕事である。文明社会に比べ未開社会では女性の役割が重要である。当地の女性は男性より良く働き文明人とは正反対である。このことは文明社会には未婚女性が多数いるのに対し、未開社会では皆無であるという事実と見合っている。当地の少女たちは押しなべて、将来夫を持つことがわかっており、己れの容貌には比較的無頓着である。P 1 4 9

女たちは三村合同の宴会には加わらない。料理の材料の下ごしらえをするだけで参加は許されず、男たちとは別の所で食べる。子供と同様女は祭りの催しへは立入れない。男は森で宴会に興じ、女、子供は村でヤム芋の皮を剥く。P 165

あたかも誰かが一緒に寝ているような気配であった。私は侵入者の大胆さたじろぎながらも、私の傍らに誰かが横になっているのではないかと、手を伸ばして探りを入れた。やはり誰かいた。私の手がその体に触れた途端、握り返された。女が横に寝ていることは、もはや疑う余地もなかった。(中略)言葉をよく知らないので、こう表現した、「ニグレ、マクライ ナンゲリ アパール アレン(あちらへ行け、マクライは女を必要としない)」と。そしてバーラの他の端で再び横になった。バーラの外でがさがさ動く音や、囁いたり、また低い声で話しているのをうつつで聞いた。これは女の単独行為ではなく、室内で彼女の身内か他の者が関与していると私は確信した。P 236

一八七七年六月二日、別の形の結婚式を目撃した。この結婚は、まさに事前の合意に基づく少女の掠奪のショーであった。以下がその全容である。午後二時か三時頃、ボングゥで武装を呼びかけるバルムが打ち鳴らされた。少年が村へ知らせをもって駆け込んできた。畑でボングゥの二、三人の女が働いていたところへコリク・マナの武装戦士たちが突然現れ、少女一人をさらって行ったという知らせであった。数人のボングゥの男たちは掠奪者たちを追跡した。双方に多少の小競り合いがあったものの、本物ではなかった(つまり、すべてがあらかじめ御膳立てされていた)。彼らがコリク・マナへ入ると宴会の準備ができていた。追っ手の中には掠奪された少女の父親と叔父も混じっていた。ボングゥの男たちは、コリク・マナから贈物を受け取り、喜んで帰って行った。少女は掠奪者たちの一人の妻になった。P 341~2

西丸震哉「さらば文明人」ニューギニア食人種紀行 ファラオ企画 1991

1968年ニューギニア在

部族内での殺人でもっとも多い例では、美人の人妻が殺されるものであって、最新の二例はこれに属する。

美女は複数の男に恋されるが、彼女はそのうちの一人を選んで夫とする。心を傷つけられた男の大多数は間もなく他の娘によって傷をいやされるが、ガンコな男は他の娘に目を向けない場合がある。

原始食人社会の風習、約束ごとのうち、人の心を傷つけることがもっとも罪深いもので、そのために殺されてもしかたがない。

妻となった美女は美人ゆえに、ガンコな男に恋された不幸ゆえに、いずれは殺されなければならない運命をたどることが多い。

彼女が殺された翌日、部落全員によって死体が穴で焼かれ、食われることとなる。

殺人者は名乗り出ろといえ、ノコノコ出てくるのも、悪いことをしたという意識がまったくないからで、人肉を食べて平気なのもこれが悪事につながっていないからだ。

P 179

男の部屋と女の部屋とが壁ではっきり分けられている。家族構成は夫と妻とその子供たちという点は、われわれとあまり変わらない。見たところ一夫一婦だが、彼らは一夫多妻婚が正常な理想的な形だと思っている。ただ男女の比率が同じくらいなものだからそれを満たしてくれないだけのことで、ときたま二人の妻をかかえている奴もある。

余分な妻をしょいこむと、よほど精出して畑を切り開かないと、生活に追われて大変だ。

子供は一人か二人がせいぜいで、それ以上のことは少ない。乳幼児のあいだに死んでしまう率が高いからだ。この小家族が小屋のとっつきにあるたき火場の一角を占有していて、その坐る場所は定まっている。

一日一回の食事が終わるころに夜がくる。八時か九時ころまでだべっていて、亭主は男の部屋へ、妻と子供とは女の部屋へ泣き別れとなって寝につく。だから家の中にはセックスの場が絶対的にありえない。

寝るところには一本の丸太がわたしてあって、これが枕となり、みんなが魚市場のマグロのようにならんで寝る。ところどころにたき火ができるようになっていて、夜の冷えこみを防ぐ。寝具は何もなく、布きれ一枚ないのだからけっこう寒い。 P 1 8 7

夫婦単位で畑仕事にでかけるのには、彼らにとって重大な意義がある。昼間の自分たちの畑だけが彼らの二人だけになれる場所だからだ。のぞき見することは非常にむずかしいが、カンのいい彼らに見つからないように、ジャングルの中でジッとチャンスを待っていると、ときたま夫のほうから妻をさそって畑から林の中へつれだっただけでいって行くことがある。そばに近づくことは絶対に無理で、もしそんなことがばれたらきっと怒ってとびかかってくるだろうと思う。

大便のときには、なにも二人ではいる必要はないのだから、このときがおそらくセックスのお時間だろうと考える。

私はそのあいだひっそりと時計を見ながら待っているだけだが、幸いなことに人のセックス待ちを、ながい時間バカヅラしていないでもすむ。はいつてから出るまで一分間とはかからないからだ。出てきたときにはスッキリとある排泄行為がすんだ顔つきをしているから、たとえ時間は短くても満足はしているにちがいない。

考えてみれば、彼らの腰にはのれんが下がっているだけで、股の下には何の障害物もつけていないのだから、無駄な時間を衣類によって消費しないですむはずだし、洗ったりふいたりする手間もかけないから、この数十秒は非常に実質的に充足した時間となるわけだ。

(中略)

ジャングル内の同じところに立ち止まってコトをすれば、ヒルの二匹や三匹は足にとりつくし、もし寝たりすれば背中にもぶら下がっていなければならない。しかし私が彼らの周囲をブラブラして、ヒルの存在を人知れずギョロギョロやってみても、ついに一匹も確認することはできない。

したがって彼らの性行為は犬のようなしぐさで、歩きながらという以外には考えられないことになる。私はこれだけで自分の観察にケリがついたと満足して帰らねばならない。

P 1 9 2~3